

次世代自動車用途に対応する長繊維強化PPSを開発

PPSは従来その優れた耐熱性と耐薬品性、寸法安定性から各種自動車用金属部品の樹脂化に貢献してきました。一方、昨今の自動車用途においては部品軽量化による燃費向上要求とともに、ハイブリッドシステムやEVのような次世代システムの普及が今後益々進むと考えられています。DICではこういった新しいニーズに対応するべく、長繊維ガラス強化PPSコンパウンドを開発しました。従来の短繊維ガラス強化品に比べ格段に向上した耐衝撃性、疲労特性、長期耐熱性を用いて従来金属から代替困難であった用途や新規構造部品への展開を図ります。

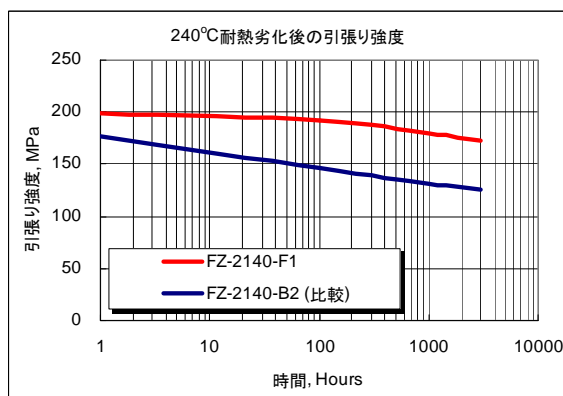
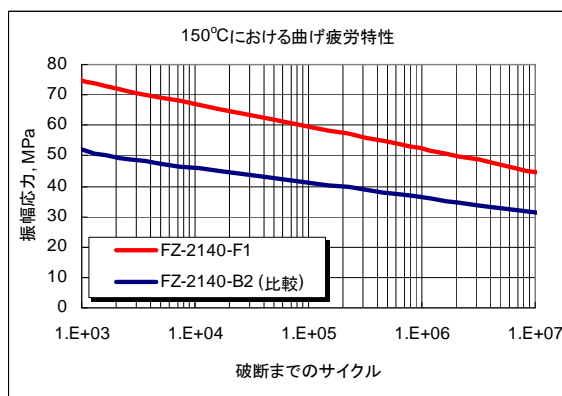
新長繊維ガラス強化 DIC-PPS

- **FZ-2140-F1** (40%長繊維ガラス繊維強化：標準)

ペレット見本及び配合GF



特徴的な物性



まとめ

- 従来の短繊維ガラス強化PPSに比べ耐衝撃性は4倍以上、曲げ疲労特性は破断まで約1000倍、長期耐熱強度は約1.5倍。(当社調べ。上記データ御参照)
- 射出成形機及び金型は従来の短繊維ガラス強化PPS用でも使用可能。但し、特性を最大化させるためにはスクリー形状・ゲートデザインの最適化が必要。
- 燃焼性及びUL規格は従来どおり。

2010年7月